

授業科目名	日本語教育実習	単位数	1
担当教員名	南口 順子・遠藤 みどり・ 中野二郎	担当形態	オムニバス
実務内容 (実務家教員の場合)	外国人に対する日本語教育、日本語教師養成課程での教育経験を踏まえて指導に当たる。		
<p>「学位授与の方針」との関係 多様な人々や生命に対して、他者を認め、他者を排除せず、仲間を作るという星槎の三つの約束の精神に則って、共生社会の創造に貢献する姿勢を身につけていること。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ 既に学修した外国語としての日本語の基礎知識と日本語教授法の知識を前提に、それらを実践的に活用し、実際の授業をどのように行うのか、実習体験を通して具体的に学んでいく。 実習の過程で得た学びを将来的に教える現場で活用できる指針としたい。</p>			
<p>授業の概要 1回の授業がどのように行われるのか、授業そのものに焦点を当てて、授業の構成、内容、方法を具体的に検討して、準備を進めていく。実際の授業を体験することで、今まで学修してきた知識を再確認し、補強し、授業改善へとつなげていく。 学生自ら実習のプロセスや成果を多角的に評価することを目的として、授業報告書・授業観察記録・学習項目分析表・実習日誌・授業観察シート・学習者体験報告書等を課題に出す。実習修了後、実習全体をフィードバックするため「日本語授業実践演習」が設置されている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>●スクーリング1日目：教育実習ガイダンス・授業準備1（第1回～4回）</p> <p>事前学修 教案作成⇒添削⇒修正教案作成</p> <p>第1回：教育実習ガイダンス（実習への心構え、実習の流れ、スケジュール確認） 第2回：修正教案検討（個人、担当教員からのコメント） 第3回：修正教案検討（グループ、担当教員からのコメント） 第4回：授業準備（グループ・個人）</p> <p>事後学修 個人で授業準備を進める（教材、教具）</p> <p>●スクーリング2日目：授業準備2（第5回～9回）</p> <p>第5回：グループ内で模擬授業に向けて準備 第6回：グループ内で練習（指導教員からコメントをもらう） 第7回：修正案を考える⇒模擬授業に向けて練習（個人） 第8回：模擬授業に向けて練習（グループごとに一人15分程度実演） 第9回：模擬授業に向けて練習（グループごとに一人15分程度実演） 授業観察のポイント、評価項目を考える（グループ）</p> <p>事後学修 個人で授業準備を進める</p> <p>●スクーリング3日目：模擬授業（第10回～12回）</p>			

第10回：グループごとに模擬授業をする（他の学生は学習者役・授業観察者をする）

第11回：模擬授業後、自己評価、他者評価を行う（指導教員からのコメント）

第12回：改善案を話し合い、考える（グループ）

＊教壇実習の連絡（教壇実習に向けての注意、連絡）

事後学修

個人で改善案をもとに教壇実習準備をする。

●スクーリング4日目：教壇実習（第13回～15回）

第13回：授業前確認・準備

第14回：教壇授業実施（授業担当以外の学生は授業観察をする）＊ビデオに撮る

第15回：授業後、反省会（自己評価、他者評価、指導教員からのコメント）

事後学修

教壇実習反省会を踏まえて、自分でビデオを観て、自分自身の授業を振り返る

（チェックシート記入）、「日本語授業実践演習」当日までに改善案を考えてくる

スクーリングでの学修内容

第1日目：教育実習ガイダンス、授業準備1

第2日目：授業準備2

第3日目：模擬授業

第4日目：教壇実習

＊アクティブ・ラーニングの手法を導入して授業を進める。

教科書

・『みんなの日本語初級1 本冊 第2版』スリーエーネットワーク

参考文献

増補改訂版『新・はじめての日本語教育2』

増補・改訂版『新・はじめての日本語教育1』、その他、適時資料を配布する

学生に対する評価

4日間のスクーリングの取り組みを総合して評価する。

スクーリング1日目～3日目（教案作成、授業計画・準備、模擬授業）評価50%、

スクーリング4日目（教壇実習）評価50%